Management Club Report

Apr.2014/Vol.136

Monthly Opinion　≪歯科医院2way 運営論≫

新年度を迎えました。新人の加入が清新な風を院内に吹き込み、新たなチャレンジを起こすには格好の時期となりました。人事評価制度を新たに導入し、給与テーブルに基づく新給与体系に切り替えた歯科医院では、給与辞令を交付して全員の意欲を喚起させようとしています。

素晴らしい試みです。結局うまくいかないからと端から諦めている医院が多い中、困難を乗り越えるべく敢然としてスタートを切ったのです。こういう地に足の着いた挑戦こそ求められるものですし、称賛に値するものです。実際の運用に当たっては、今後様々な問題に遭遇すると思いますが、それを乗り越えるよう私どもも全力を挙げてサポートしていこうと決意しています。そうでなければ、“院長のさじ加減”で昇給が決められる“家内制手工業”の域をいつまでたっても脱することができないからです。

そんな院内改革の実践に勇気付けられ、ひとつの空想に経験と思いを加味してまとめた考え方を披露してみたくなりました。名付けて『歯科医院２way 運営論』。ご一読ください。

1　ヒト・モノは21世紀なのにシステムは昭和のまま

歯科医院 2way 運営論とは何か

『歯科医院 2way 運営論』とは何か？『論』などと気取って言うほどの代物ではありません。異なった対応を必要とするケースが併存する場合、二刀流で運営してはどうかというくらいのことで、しかも、殊更目新しい考えでもありません。

特急列車のハイクラス車である『グリーン車』や航空機の『ファーストクラス』が一般車両やエコノミークラスと併設されているようなケースと同じで、歯科医院でも似たようなシステムが昔からとられていました。

自由診療受診者用に個室の『特診室』を作り、保険診療受診者用の『大部屋診療室』と 2 つに分けた診療態勢をとっているところがありました。今でも『特診室』はあるかもしれませんが、自費と保険で分けるのは差別的で世間体がよろしくないと、最近は流行らなくなった感があります。